

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[サーバ側の設定](#)

[クライアント側の設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

ビジネス オブジェクト (BO) サーバかクライアントが (Linux でインストールされる) Java DataBase Connectivity (JDBC) によって接続し、CIS の内で送達される意見にアクセスできるようにこの資料に Cisco インフォメーション・サーバ (CIS) を設定する方法を記述されています。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CIS
- BO サーババージョン 3.1
- JDBC
- Linux

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

設定

順序でこのセクションを BO サーバが JDBC によって接続するように設定します CIS を使用して下さい。

サーバ側の設定

CIS を設定するためにこれらのステップを完了して下さい:

1. CIS JDBC ドライバ **csjdbc.jar** ファイルをディレクトリに BO クライアントマシンで保存し、BO がファイルにアクセスできるように適切なファイル許可が割り当てられるようにして下さい。
2. これらの場所の **jdbc.sbo** ファイルを修正して下さい:

<Business_Object_Enterprise_Install_> dataAccess > connectionServer > JDBC

<Business_Object_Enterprise_Install_> win32_x86 > dataAccess > connectionServer > JDBC

これらのファイルのための一般的な JDBC 接続 エントリをアップデートして下さい:

サーバの **csjdbc.jar** ファイルの位置を指すようにクラスパス > パス 要素を変更して下さい。

cs.jdbc.driver.CompositeDriver に JDBC クラス パラメータを変更して下さい。

JDBC に URL 形式 パラメータを変更して下さい: **compositesw: dbapi@<HOST>: <PORT>** か。 **\$DATASOURCE\$**. 合成サーバ ホスト名と **<HOST>** および合成サーバポートと **<PORT>** を取り替えるようにして下さい (デフォルトは **9401**) あります。
最終コンフィギュレーションはこれに類似したのようである必要があります:

3. あらゆる BO 仕様オペレーションの前にこの行が含まれているように BO サーバを開始するユーザ向けのログオン プロファイルを修正して下さい (通常 **.profile** か **.bash_profile**):

```
export CLASSPATH=$CLASSPATH:<path to JDBC driver>
```

サーバの **csjdbc.jar** にパスを一致させるように **JDBC driver>** に **<path** を修正して下さい。

4. ログアウトは、サーバにログインし、BO をリサイクルします。

クライアント側の設定

クライアント側のマシンを設定するためにこれらのステップを完了して下さい:

1. CIS JDBC ドライバ **csjdbc.jar** ファイルをディレクトリに BO クライアントマシンで保存し、BO がファイルにアクセスできるように適切なファイル許可が割り当てられるようにして下さい。
2. クライアント側の **jdbc.sbo** ファイルの一般的な JDBC 接続 エントリをアップデートして下さい:

クライアント側の `csjdbc.jar` ファイルの位置を指すようにクラスパス > パス 要素を変更して下さい。

`cs.jdbc.driver.CompositeDriver` に JDBC クラス パラメータを変更して下さい。

JDBC に URL 形式 パラメータを変更して下さい: `compositesw: dbapi@<HOST>: <PORT>` か。 `$DATASOURCE$`. 合成サーバ ホスト名と `<HOST>` および合成サーバポートと `<PORT>` を取り替えるようにして下さい (デフォルトは `9401`) あります。
最終コンフィギュレーションはこれに類似したのようである必要があります:

```
export CLASSPATH=$CLASSPATH:<path to JDBC driver>
```

3. クラスパス Microsoft Windows システム環境変数を修正して下さい。このテキストを現在のエントリの端に追加し、`JDBC driver>` にクライアントマシンの `csjdbc.jar` ファイルの位置と `<path>` を取り替えて下さい:

```
;<path to JDBC driver>注 テキストに先行するセミコロンを追加するようにして下さい。
```

4. 宇宙デザイナーを起動させ、接続を作成するように試みて下さい。
5. ユーザ名とパスワードを入力します。
注 ユーザ名、パスワードおよびドメインはシステム アドミニストレータによって提供する必要があります。
6. `<ドメイン名>` が取り替えられますユーザ 存在している `<データ ソース name>` は接続するように試みる仮想 な データベースとドメインと取り替えられる URL フィールドにこの行を入力すれば、:

```
domain=<domain name>&dataSource=<data source name>
```

7. 接続をテストして下さい。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。